



幅広い観点から、 地域を支える

自治財政局地方債課調整係長

西林 幸泰

NISHIBAYASHI Koudai

平成20年 4月 総務省採用

大臣官房会計課

平成21年 4月 自治財政局公営企業課

平成21年 10月 大分県総務部市町村振興課

平成23年 10月 消防庁総務課

平成26年 4月 自治財政局交付税課検査係長

平成28年 4月 現職

■生活に欠かせない施設の整備のために

皆さんは、「地方債」についてご存じでしょうか？聞き慣れない言葉だと思いますが、地方債とは、自治体が建設事業などの資金を集めるために負担する債務(借入)のことです。皆さんの生活に欠かせない道路や公立病院などは、多くの場合、この地方債を活用しながら建設されています。

自治体が借金してもいいのか？と疑問を持つ方もいると思いますが、建設事業など将来の住民にもコストを負担してもらった方が望ましい場合や災害など一時的に多額の出費が必要となる場合には、自治体がいったん資金を借り入れて、後年度に少しずつ返済していく仕組みが認められています。

自治体は、原則、自由に地方債を発行することができますが、インフラ整備や災害復旧事業が円滑に進むためには、地方債の信用力を補完することや自治体の財政の健全性を確保することが重要となりますので、総務省は、地方債の発行に対して、同意等の事務を通じた関与を行っています。

■総務省の仕事

「総務省」って、どんな仕事をしているのかよく分からない…と思った方、その気持ち、よく分かります。所管業務がよく分からない理由として、省名が「総務」であることに加え、総務省が幅広い行政分野をカバーしている組織であることが挙げられると思います。

私が所属している自治財政局では、住民に必要な行政サービスが提供されるよう、自治体の財源の保障・調整を行っています。自治体の行う事務の多くは、各省庁の施策と密接に関連しているため、自治財政局の職員には、省庁横断的な知識が必要となります。これは、言い方を変えれば、総務省では、幅広い行政分野に関わり、活躍できるチャンスがあるということです。もちろん、1人で全ての行政分野をカバーすることはできないので、同僚達と協力して業務に取り組むこととなりますが、その分、職員達の一体感は、どこにも負けません。仕事にやりがいをお求めの皆さん、私達と一緒に働いてみませんか？



Private Life

平日はデスクワークになりがちなので、休日にはできる限り、遠方へ出かけるようにしています。登山やスノーボードにもよく出かけますが、最近では、友人達とアウトドアパークでアクティビティを楽しみつつ、小田原温泉で日頃の疲れを癒やしてきました。



Question & Answer

Q. 今までに一番印象に残った仕事は？

A. 災害復旧事業については、国の手厚い財政措置が用意されていますが、平成28年に発生した熊本地震では、さらに手厚い対応が必要となったため、様々な特例措置を行い、被災地の復旧・復興に深く関わることになりました。地震発生直後は、混乱を極めました。被災自治体と意見を交えながら、国と地方の垣根を越えて、復旧・復興に取り組むことができたと思います。地震の発生から一年後にプライベートで熊本県を訪れ、被災自治体の職員の方々と、お酒を交えてお互いの労をねぎらったことは、今でも忘れられません。

Q. 10年後はどのような仕事をしたい？

A. 総務省の自治部局の仕事の醍醐味の一つは、国と地方の両方から地方自治にアプローチできることです。私は、入省2年目に大分県に出向し、自治体の業務を経験しましたが、将来的には、責任ある立場で再度自治体に出向し、国で培った経験を生かしつつ、地方の視点を持って、地域住民の生活を支える仕事に関わりたくと考えています。